

子どもたちが進んであいさつをする学校づくり、町づくり

6月1日（金）、「コミュニティ城崎」の会長さんから1本の電話がありました。早速6月の全校朝会で、子どもたちに話しました。内容は、次の通りです。

去年、用事で湯村温泉に行きました。そこで子どもたちとすれ違う際、とても気持ちの良いあいさつをしてもらい、感動しました。どんな指導をしたら、こんな子どもたちが育つのかと思いました。

そこで、学校のあいさつ指導の取組について、是非教えてもらいたいです。6月の終わり頃、学校へお伺いしてもよろしいでしょうか。

とても嬉しい気持ちで、子どもたちを思い切りほめました。始業式で、「2つの『あ』」である「あいさつ」と「安全」の大切さを述べました。温小っ子はそのことが既に身につけており、以前から「あいさつ」がしっかりできていることを誇りに思いました。

先週は、来校の確認の電話がありました。さらに「子どもたちが自ら『あいさつ』をしてくれるまちづくりについて」と題して、下記のFAXが届きました。

「あいさつ」がコミュニティの基本ですが、旅行等で湯村温泉に行ったとき、子どもたちが進んで「あいさつ」をしてくれたことが、本当に気持ちよく、このような子どもを育てられている学校も、素晴らしいと思います。

今回、訪問させていただくことを楽しみにしています。

つきましては、お聞きしたい内容について事前に送付させていただきますので、当日はよろしくお願いいたします。

（質問が8点…きっかけ、子どもの様子、地域住民の反応、あいさつ運動の注意事項等）

以前の円型校舎には、「あいさつがよくできる学校」「安全のきまりをよく守る学校」という懸垂幕が大きく掲げられていました。「あいさつ」と「安全」の徹底は、旧温泉小学校からの伝統です。その点を大切にしていたことは、春來小、熊谷小、八田小、奥八田小も同様であり、重点的に指導してきたことです。

もちろん、「進んであいさつをする子」は、決して学校だけで育つものではありません。むしろ、子どもたちが生活の大半を過ごす家庭の保護者の皆様、そして子どもたちの生活の舞台である地域の皆様のご理解とご指導の賜物です。

当日は、コミュニティ城崎の方が約10名来られるそうです。湯村温泉でたまたま出会った温小っ子の様子を電話してくれるだけでなく、城崎からわざわざ10名が来られるという事実。

「あいさつ」には、そこまで人を感動させ、人を元気にさせる力がある。

ということ、改めて思い知らされました。

城崎の方々には、学校・家庭・地域が一体となって、以前からあいさつ運動に取り組んできたことを伝えます。そして、今回のことを励みとし、子どもたちが進んであいさつをする学校づくり、町づくりに、保護者・地域の皆様と共に一層力を入れて取り組んで参りたいと考えています。これからも、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

新学習システム ～「確かな学力の育成」に向けたきめ細やかな指導の充実～

本校では、中・高学年の算数を中心に新学習システムの教員が2名配置され、標記のような指導に努めています。方法としては、一つの教室に2名の教員が入り、主に授業進行役と個別指導役を担う同室複数授業（TT）や、学級の児童を2つに分け、それぞれ別の教室で授業を行う少人数授業を行っています。以下は、子どもたちの声です。

同室複数授業…全体の中で質問がしにくい時でも、もう一人先生がいてくれると分からないことが聞きやすい。

少人数授業 …①人数が半分になると、人が多い時よりも発表がしやすい。

②人数が半分になると、その教室にいる全員が発表できるので、みんなで勉強している気持ちになれる。

これからも、確かな学力の育成に向け、きめ細やかな指導の充実に一層努めます。